

「徳島県立博物館新常設展基本構想(案)」の概要

1 策定の経緯

2020年に文化の森総合公園が開園30周年を迎えることを機に、博物館常設展を常に新しい「徳島の顔」を発信できる施設とするため、これからの時代に相応しい「新未来型展示」へとリニューアルすることとし、このたび、県内外の有識者や県民からいただいたご意見をもとに、「基本構想案」を取りまとめた。

2 基本方針

徳島まるづかみ！－”いのち”と”とき”のモノ語り－ 昔・今・未来のとくしま

県内外から訪れる利用者が、徳島の自然や歴史、文化を俯瞰し、徳島の魅力や特色を実感できる展示を目指す

3 展示のあり方

以下の手法により、親しみやすく、訪れるたびに発見があり、「徳島らしさ」を体感できる展示を目指す

- ・ 豊富な収蔵資料を活用した「実物資料の魅力発信」
- ・ タイムリーな展示替えが可能な「フレキシブルな展示構成」
- ・ 誰もが安心して利用できる「ユニバーサル化の推進」
- ・ 本県の強みを活かした「4K・VR・ハンズオンの活用」

4 ゾーニング

- ・ 徳島の特色や新常設展のみどころが一目でわかる「ロビー・ゾーン」
- ・ 情報交換や交流の場となる「コミュニケーション・ゾーン」
- ・ 徳島に根ざしたテーマ設定を中心にしながら、地球規模の視野も取り入れた「メイン・ゾーン」
- ・ 利用者が興味・関心に応じて自由に見学できる回廊「ミュージアム・ストリート」